

原告意見陳述

原告

平凡で極ありふれた生活の中で、聞きなれない言葉が舞い込んできたのは今から7年前の2011年です。放射性物質による「内部被ばく」。

真っ先に子ども達から被ばくって何？と質問されました。

誰も教えたことのない言葉でしたから、疑問に思うのは当然です。子ども達には「放射性物質を浴びることだよ、放射性物質は体に悪いものなんだよ」と説明しましたが、イマイチ納得しなかった様子でしたので、補足して子供たちに、こう説明しました。「大震災が起きた影響で停電になり、原発を冷やす水が止まってタンクの中の温度が上昇して設備が爆発してしまったんだよ。その水蒸気爆発とともに放射性物質が飛び散ったんだよ」と事細かく説明しました。そんな説明に子供たちはうなずいて驚きました。

あの当時も現在も国や自治体は、原発事故直後に高い線量が記録されたことをなぜ隠さなければいけないのでしょうか？

福島県でも飯館村、浪江町等、特に線量の高い地区だけ線引きして避難させ仮設住宅を提供。同じ福島県でも飯館村、浪江町より線量の低い地区は何の準備もしてくれず、ほぼ野放し状態。一回きりの補償で終了しています。他県から見たら同じ福島県民です。同じ被害者なのです。線量の低い地区の私たちは腹が立ちます。2011年3月11日にさかのぼって線量の低い地区も線量の高い地区同様に補償してほしいです。線量の高い地区ばかりの補償をやめてほしいです。福島県のどこに住んでも同じ被害者なんです。他県から見たら同じ福島県民なのですから。

これから先、大人も子どもも健康が心配です。放射性物質で内部被ばくした影響が将来、数年後、どのような形で出てくるのかがとても心配です。これから成人になる子供たちは特に不安です。うちには女の子と男の子がいます。娘の心配と言えば結婚が出来るのだろうか？出産がちゃんとできるのだろうか？他県からは福島県の女とは結婚できないとまで言われ風評被害をあびているのも事実です。息子は将来立派な成人になれるのだろうか？染色体異常がないだろ

うか？もしもの時は誰が補償してくれるんだろうか？色々考えただけで親として頭が痛いです。

そんな中、最低限度出来ることと言えば、福島県から離れた安全な土地で作られた野菜、果物、精肉を購入して食べさせることです。必ずしも安全なものかどうかなんてわかりませんが、母親として、それしか出来ません。でも、果たして福島県産の物だけ避けて本当に大丈夫なのかしら？と、ふと思う時があります。なぜなら、空は果てしなくつながっているからです。どこまでも放射性物質は飛んでいます。産地なんて関係ないような気がします。

生活環境も 180 度変わりました。野外活動の時はマスクは必需品となりました。風邪じゃなくてもマスクは欠かさない物になってしまった生活。また屋内での生活が増えたのも事実です。親としては、進めたくないゲームも仕方なく許してしまうのが当然になってしまったゲーム生活。ゲーム脳になっていく子どもにはしたくないが、どうしようもない生活環境。そんな子どもに不安でなりません。

除染については、除染されたとはいえ、安心できた環境とは言えません。なぜなら、放射性物質は目に見えないからです。本当に汚染されたのかわかりません。

私の息子は現在中学 1 年生です。6 年生の春から福島県の野球クラブに入団し、本格的に野球を始めました。それまでは娘達とスイミングスクールに通っていて、スイマーとして室内プールで活躍していましたが、高学年になると自然と自分の意志が強くなり、やりたいスポーツも水泳ではなく野球になりました。自分の好きな野球をしてる今が一番輝いています。そんな息子の追っかけで私も今が一番楽しいです。が、一つ心配なのは土壌です。土壌のセシウムボールが再浮遊し、吸収する恐れがあると聞き、是非土壌の測定を実行してほしいです。目に見えない放射性物質が土壌とどれだけ関係しているか、一番知りたいことです。ぜひ国や自治体の実行してくれないかと思っています。泥だらけのユニフォームにどれだけ放射性物質が含まれているのか知りたいです。

何をするにも国や自治体の対応が遅すぎます。原発事故当時のあの記憶は今も忘れません。当時の福島市長は原発情報をいち早く知り、誰より早く家族と親

戚と早々と山形方面へ避難した事を。福島市長自らわかっていたのなら、全地区に避難指示を出してほしかったです。自分が良ければいい。そんな方が福島市長だったのかと思うとガッカリします。まるでひとつのよう行動。絶対に許せません。また、ガラスバッチにしる甲状腺検査、ホールボディーなど今も実施していますが、そのデータ数値はごまかしているような感じがしてなりません。ガラスバッチに関しては特にそうです。なぜならば以前持ち運びしているガラスバッチと室内に置いているガラスバッチの数値を比べてみると、室内の方が高かったからです。室内にいる方が被ばくしているようで、絶対に信用できません。

大人も子どもも無用な被ばくをさせられたのかと思うと悔しさが残ります。

あれから7年という歳月が経ちますが、親の目が黒いうちは子どもを守る義務があります。線量で線引きしないで下さい。福島県全体として考えてほしいです。

ガラスバッチはただ市民を満足させている、自己満足にすぎない気がしてなりません。

これからの未来のためにこの意見陳述書を通して、少しでもわかっていただけたらありがたいです。

ご静聴ありがとうございました。